

平成24年度
お茶の水女子大学部局別評価

自己点検・評価及び外部評価の
「改善を要する点」対応説明書

平成25年10月

お茶の水女子大学

文教育学部

指摘事項	対応・改善策
<p>【改善を要する点】</p> <p>①専任教員数が減少しており、教育支援者数も十分とはいえない。(P86)</p>	<p>【文教育学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・欠員が生じた際の後任人事にあたり、各コース・環における専任教員と学生数との比率に大きな差が生じないように、大学執行部に要望している。 ・予算の範囲内で、できる限り教育支援者（AA）の確保に努める。 <p>【総務機構】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・後任人事については、現在の教育組織をもとにしてのみ考えるのではなく、教育組織を大ぐりにして、その上でどのような分野の人事を行うかを決めていく。
<p>【改善を要する点】</p> <p>②学生の平均取得単位数は、資格取得科目履修を考慮しても多く、単位実質化の観点からは適切な指導などによる改善が必要である。(P6、86)</p>	<p>【文教育学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・CAP 制導入に向けての検討を開始する。 <p>【教育機構（教務企画室）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本学では、学生の学修パフォーマンスを厳格に反映できる f-GPA を採用し、その数値を褒賞や学修指導に反映させている。今後は、GPA の数値が低くなる場合のディメリットを学生に周知させることにより、履修単位数が自主的に制限される方策を講じる。あわせて、キャリア支援活動と連携しながら将来の職業ビジョンを明確化させることにより、自分に本当に必要な資格だけを履修するように誘導する。
<p>【改善を要する点】</p> <p>③図書館などの自主的学習施設における開館時間、蔵書・機器設備に改善の余地がある。(P86)</p>	<p>【文教育学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各コースの図書室の蔵書をこれまで以上に附属図書館に移すように努める。 ・コースの蔵書を減らすことで学生用パソコンを増設することが可能となる。 <p>【教育機構（教務企画室）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まずは、学生のニーズを調査することにより、学生が欲している自主的学習施設の開館時間、蔵書、機器設備を精査する。その結果を踏まえて、開館時間の延長のための非常勤職員の雇用や業務委託、設備費等の予算を順次計上する。 <p>【附属図書館】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成25年6月に附属図書館運営委員会の下に新図書館構想WGを設置し、蔵書・コンテンツ、空間機能、人材育成の3つの観点から検討を行っている。10月に、全教員および図書室を有する学科等を対象としたアンケートを実施し、年内を目処に方向性を打ち出す。平成27年度の概算要求を視野に入れている。

<p>【改善を要する点】</p> <p>④文献検索閲覧サービスの学外からの利用可能化について学生の要望が多いことを踏まえ、改善を図ることが期待される。(P96)</p>	<p>【文教育学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・接続方法を改善するようアドバイスをすることで接続可能なサービスの利用が学外からもできるようにする。
<p>【改善を要する点】</p> <p>⑤シラバスの記載内容について、「おおまかすぎる」との学生の意見も多いことを踏まえ、さらなる適正化・充実を図ることが期待される。(P6、96)</p>	<p>【文教育学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義形式の科目については、原則として毎回の授業の内容の骨子を記載することを学部として申合せ、非常勤講師にも協力を求める。 <p>【教育機構（教務企画室）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・FD活動において、シラバスに載せるべき情報、シラバスの効果的な記載方法を教職員に改めて周知する。あわせて、各学部カリキュラム委員会が中心になり、各教員のシラバスを通覧し、改善が必要と判断されたものについては、修正を依頼する。
<p>【改善を要する点】</p> <p>⑥ひとつの履修科目につき授業受講以外の学習時間30分未満が5割近い現況を踏まえ、事前準備・事後展開の学修やその他の自主的な読書・知的活動の充実に向け、適切な方法で奨励・支援することが期待される。(P96)</p>	<p>【文教育学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参考文献をできるだけ多くシラバスに記載し、図書館で読むように各授業で指導する。また、参考文献を読んで学習したことが試験やレポートの評価につながるように工夫する。 ・授業の予習・復習に十分時間を費やす必要があることをシラバスに記載し、授業で指導する。また、レポート以外にも学期中に提出する課題などがある場合には、その点もシラバスに明記し、授業で適切に指導を行う。 ・授業・学習支援システム「学生ポータルサイト」、「Moodle」、「Plone」を有効活用して授業に関する事前事後学習を奨励できるよう教員が工夫することも検討する。 ・博物館・美術館・劇場等に出向いての学習、あるいは映画（フィルムスタディーズ）などを紹介する。 <p>【教育機構（教務企画室）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一方向的な講義型の授業形態から、アクティヴ・ラーニング型の授業形態への移行を全学的に進める。そのために、FD活動においてアクティヴ・ラーニング型授業のレイアウトを確認したうえで、相互の授業を参観し、検討しあいながら、各教員の授業スキルの向上に努める。あわせて、GPA値の高さによるメリットとディメリットを学生に周知することにより、学習時間を自主的に増加させるように誘導する。

<p>【改善を要する点】</p> <p>⑦学部・大学院とも、課程修了により付与される学位（名称）について、学位規則には記載されているものの、大学案内をはじめ受験生や在校生に対して公表・配布される資料には明記されていない点は改善を要すると言える。（P96）</p>	<p>【文教育学部・教育機構（教務企画室）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学案内2014から学位（名称）を明記した。今後HP、履修ガイドへもディプロマポリシーとしてより分かりやすく明記する。
<p>【改善を要する点】</p> <p>⑧お茶の水女子大に限らず、多くの大学で見られることだが、近年の大学政策等もあって、大学・部局の運営や教育関連活動に費やす時間が大幅に増加し、教員の多忙化（時間の劣化）と研究活動面へのしわ寄せが目立つ傾向にある。運営や教育関連活動のための時間が適正範囲を超えて過剰とならないように、適切かつ可能な範囲と方法で、簡素化・効率化や業務分担の公平化を図ることも重要と考えられる。（P96）</p>	<p>【文教育学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学科・コース・環において、あるいは学部としても、専任教員数の減少に応じたカリキュラムの見直しを随時行い、その体系性や学生の選択可能性を維持しつつ、特定の部署や教員に負担が集中しないように努める。 ・学部教授会メンバーが担当している委員会委員等の業務の一覧を毎年度作成し、特定の教員に過度に仕事が集中しないように配慮する。 <p>【総務機構】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全学委員会等（室も含む）の精査を行い統合・廃止などの措置によって、運営面における負担の軽減をはかる予定である。教育・研究に直接関わらない管理運営部門を、事務組織を中心にしていくこと、それに、改組して教育組織を大ぐりにすることなどによって、委員数を減らしていく方針である。